

博士論文要旨

日本企業による ASEAN 自動車生産ネットワーク構築と地域バリューチェーン(RVC)の変化

立命館大学大学院国際関係研究科
国際関係学専攻博士課程後期課程

リザ ノール アルファニ
RIZA Noer Arfani

本論文は、東南アジアにおける主要分野における生産ネットワークの深化と拡大に関し、特に自動車産業に焦点をあてて ASEAN（東南アジア諸国連合）主要国であるインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの5か国間との貿易と産業関係を中心にした研究である。この地域の自動車産業は主に日本の企業による直接投資を中心として発展しており、初期においては各国別に生産が開始されたが、現在までにより統合された生産ネットワークとして一般的に特徴づけられ、各国の産業政策の進化と共に進展してきた。

本論文は、地域のバリューチェーン（RVC）の観点から地域の日本の自動車生産のネットワークの変化に焦点を当てて日本の自動車企業の地域における生産/製造活動の改善の背景や動機に関してもより考察を試みている。特に（1）日本企業による自動車貿易関係の変化の推移、（2）一連の ASEAN 地域への生産シフトにおいて当該国で比較的先進的企業における地域バリュー・チェーン（RVC）の構築と付加価値の拡大に関する戦略、および（3）それらの企業および関連企業や害関係者によるセクター別の RVC を踏まえた取り組み、また ASEAN 主催国政府による政策対応等の取り組みに関して詳細に焦点を当てている。

本研究は、過去 30 年間の東アジアおよび東南アジアのパートナーとの自動車の日本貿易のパターンと付加価値の動向による地域の自動車生産ネットワークのダイナミックな変化を明らかにする。この変化は日本と ASEAN 諸国の自動車関連部品生産の生産移転が地域における自動車の貿易パターンをシフトさせた。こうした生産シフトと（トヨタに代表されるような）企業によって行われた投資対象国での技術移転の進展と生産対象の拡大する方針に基づき進められ、現在では東南アジア全体の生産と地域サプライチェーンが確立されてきた。

本論文において特に代表的な企業として採り上げているトヨタのグローバル展開戦略に基づき ASEAN IMV (Innovative International Multi-purpose Vehicle) プロジェクトの推進により、ASEAN のバリューチェーン関連企業は、

地域内での生産と地域サプライチェーンのプロセスの進展に沿って拡大してきた。バリューチェーン全体にわたり、新規投資、既存企業への投資の双方とも両者の複合的な活動を通じて進展してきた。それは、地域における調達とサプライチェーン、開発（R&D）センター、地域子会社および地方パートナーシップへの支援体制の構築に基づくものである。具体的には技術水準の向上及び蓄積に基づいた地域での生産拡大とサプライチェーン形成はトヨタの生産ネットワーク全体、さらにグローバルなトヨタ生産ネットワークに沿った技術蓄積によって地域での生産活動全体のバリューチェーンの向上に寄与している。特に製造過程や生産設備、製品開発、R&D、デザイン、マーケティング、アフターサービスのすべてにわたり急速に進展してきた。

このように本論文では ASEAN 地域における自動車産業における地域でのバリューチェーン（RVC）の進展について特に注目されるべき変化を遂げていることを明らかにした。